まちづくりの基礎に

「市民意識調査」から……その1

昨年の七月に実施した「市民意識調査」の結果がまとまりました。今号から数回に分けて、その概要をご紹介します。

この調査は、市内の有権者の中から一千人（男女各五百人）の人たちを無作為で選び出し、質問表を郵送して無記名で回答を求めたものです。調査期間は、昨年の七月二十日から八月二十日、回収率は、四〇・一％でした。

市政の関心度が増加

「市民意識調査」は、昭和五十二年度から定期的に行われており、今回は七回目にあたります。市の仕事がどの程度の効果をあげているのか、また、市民の皆さんの要求がどのように変わってきているのかを知ることができ、今後のまちづくりの進め方に欠かすことのできない貴重なデータをこの調査は提供しています。

最初に今回の調査結果を全般的にみてみましょう。

市政への関心度についてみると、積極的関心派が一一・七％と前回調査より三ポイント増え、市政への関心が高まってきています。最も関心のある項目としては、「税金」、次いで「道路・排水路」となっています。

市政の動きを知る手段としては「広報にいつ」からが圧倒的に高い数値になっていますが、市政に自分の考えが「よく反映されている」と考えている人は一・七％に過ぎず、今後の市政運営に重要な示唆を与えています。また、新津市が他の都市に比べて立ち遅れている点はという質問については、「企業誘致」と「道路の整備」に回答が集中し、経済基盤づくりの遅れを指摘しています。

まちのイメージは「豊かな緑」が一番

また、この調査では、今後のまちづくりを進める上で、市民の皆さんが描いているまちのイメージを質問してみました。

美しく住みよいまちをつくり快適な生活環境づくりを進めるうえでの重要な要素として、「豊かな緑」と「のびのびと歩ける道や広場」をあげる人が多く、高い支持を集めています。また、将来の人口については、増加を望む人が六〇％近くに達し、その人口数として「十万人程度」が適当とする声が多いようです。

土地利用については、「宅地や工場用地として農地の開発を進めるべきだ」という人が四四・一％に達する一方で、地域開発を進めるにあたっては、「公害が起こらないようにすべき」（四五・一％）という結果でした。

工業振興策としては、「企業誘致に重点を置き、工業団地を造成する」が六一・八％に達し、また、新津市の中心街が魅力あるまちとなるためには何が必要かという質問に対しては、「デパート」と「大型スーパー」が約三〇％と拮抗して上位を占め、集客性のある施設の必要性を考えている人が多いことがわかりました。

施設の配置は広域的な観点から

なお、これからの施設整備のあり方については、「周辺市町村と協力しあって、広域的な観点から施設の配置などを検討していくべきだ」という意見が五七・一％に達し、地域間競争の時代から自らの特質を生かした共存共栄の道を選択することへ市民の高い支持が集まっています。都市基盤や生活環境の整備面で最も急がなければならない施策としては、二人に一人の割合で「交通渋滞の解消とバイパス道路の建設促進」をあげています。

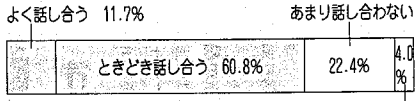
回答者の内訳

（総数401人）

【性別】	
男	50.6%
女	48.1%
不明	1.2%
【年代別】	
20代	8.2%
30代	16.0%
40代	21.9%
50代	17.2%
60歳以上	35.4%
不明	1.2%
【職業別】	
農業	7.5%
自営業(商工鉱業)	9.5%
被傭者	35.7%
主婦	20.9%
無職	19.2%
その他	4.5%
不明	2.7%
【地区別】	
新関・阿賀・満日地区	12.5%
荻川地区	13.2%
小合地区	7.2%
金津地区	9.7%
市街地東部	11.7%
市街地中央部	16.2%
市街地南部	12.2%
市街地西部	14.5%
不明	2.7%
【居住年別】	
10年未満	5.0%
10～20年	13.5%
20年以上	78.8%
不明	2.7%

市民意識調査の結果と概要①

問1 市政について、家族や友人、または近所の人たちと話し合うことがありますか。



※年代別にみると、20歳代で「よく話し合う」が0％、「話し合ったことがない」が12.1％となっていて、無関心ぶりが目立っています。逆に50歳代は21.7％と最も関心が高く、40歳代、50歳代では約4人に3人の割合で市政に関心を持っていることがうかがえます。しかし、60歳代以上でまた関心度が低下する傾向にあります。平均値としては、とにかく話し合うという人は72.6％に達し、昭和58年調査時の69.6％を上回っています。

問2 問1で、主に話し合われる内容を二つ選んでください。

①税金……49.8％　②道路・排水路……29.6％
③教育・文化……24.7％　④社会福祉……23.7％
⑤商工業……16.5％　⑥農業……12.7％

以下、下水道、交通事故、保健衛生、選挙の順です。

※年代別にみると、30歳代を除いていずれも「税金」が1位を占めていますが、30歳代では「教育・文化」が40％で1位です。「社会福祉」については、20歳代の0％から60歳代の32.4％まで、年代が高くなるにつれて関心も高くなるという傾向がはっきり表れています。地区別では、新関・阿賀・満日地区で「税金」と並んで「道路・排水路」が同率（40.5％）1位となっています。なお、昭和58年調査時の関心事は、①交通（41％）②税金（35％）③下水道（24％）④教育・文化（18％）の順でした。

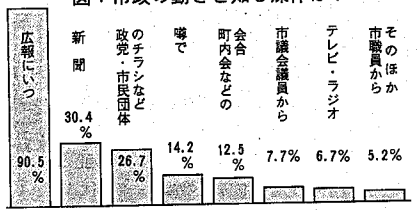
問3 市政について、主に何から知識を得ていますか。二つ選んでください。

①広報にいつ……90.5％　②新聞……30.4％　③政党や市民団体のチラシ・機関紙……26.7％　④噂で……14.2％　⑤町内会などの会合を通じて……12.5％

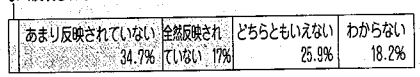
以下「市議会議員を通じて」などです。

※広報にいつが、情報媒体として圧倒的に高い数値となっています。「市議会議員を通じて」という項目に着目してみると、男12.3％、女3.1％と男女間に大きな差があります。年代別にみた場合、20歳代では「市議会議員を通じて」が0％、「町内会の会合を通じて」が3.0％に対し、「テレビ・ラジオから」が21.2％、「市職員から」が15.2％となり、明らかに他の世代と異なった回答パターンを表しています。

図：市政の動きを知る媒体は？



問4 自分の考えがどの程度市政に反映されていると思いますか。



※自分の考えが市政に反映されていないという人は、「あまりよく」「全然」を合わせると51.7％になり、過半数を超えています。この傾向は、男女別、年代別、職業別、地区別のいずれでみても大きな差はありません。

問5 自分の考えをどんな方法で、市政に反映させていこうと考えますか。2つ選んでください。

①選挙のとき投票で……57.7％
②町内会を通じて……44.2％
③市議会議員を通じて……27.9％
④直接、市役所の担当課へ行く……22.6％
⑤市政懇談会などの場で……13.5％

※職業別でみると、農業を職業とする人では「議員を通じて」と答える人が55.6％、地区別でみると、小合地区で同様に「議員を通じて」が60.0％で1位となっています。さらに「議員を通じて意見を反映させる」という人を男女別にみてみると、男性36.4％に対し女性16.9％と、かなり大きな差があります。また、年代別にみると、20代では「議員を通じて」とする人が0％となり、「選挙のときの投票で」とする考えが圧倒的（85.7％）です。

お買物、ご用命は市内で

古里からの直行便
「白玉の滝」「秋葉の里」「燃ゆる水」
好評発売中！
(有)酒井商店 ☎22-7675(代) P あり 無休

ニキビ・シミ・肌アレでお悩みの方に
クロロフイル新津美顔教室
ご相談、ご指導は無料です。
費用は、お手入れに必要な化粧料（1品1,000円～2,200円税抜き）とテキスト2冊をそろえるだけ！
〒956 新津市本町3丁目3053-17
TEL 22-2011
◆営業時間 AM11:00～PM7:00 ◆休日 月曜・祭日
※新津商工会議所となり
郵便局 ●新津商工会議所 ●新津スイミングスクール ●クロロフイル美顔教室

朝9時30分までの受付は当日上がり
高級衣類のお手入れは……
マルヤクリーニング 持込2～3割引 ☎22-0739
正しいクリーニングと保存は
衣類の本当の節約

電気のことなら、お気軽に！
お宅の家電品はすべて調子よくお役に立っておりますでしょうか？ちょっと点検してみて下さい。もし、お困りのもの、ご不満のものがございましたら何なりとご相談下さい。
（どこのメーカーでも結構です）
※午後8時まで営業
YAEDEN 株八重電商事
新津店 新津市本町2丁目17-13 ☎(0250) 24-3131